

企画調整局～

1. 医療産業都市／産業としての連携について

①がんの免疫治療薬

国民の2人に一人ががんになる時代です。本会議では、理事長に就任された本庶先生が研究されているがんの免疫治療薬に関連して質問をいたしました。今春より、進出企業との共同研究が始められること、また、抗がん剤の最新知識について、県市の薬剤師会など連携の上、情報発信をご検討いただくというご答弁をいただきました。

そこで、医療産業都市の中で進めていく医薬品産業という視点でみた場合、がんの免疫治療薬と神戸医療産業都市がどのように関連していくのか伺います。

再質問) 神戸での研究として、以前から、先端医療センターにおいて、PET を使ったアルツハイマーの初期診断の研究に取り組まれてきています。アルツハイマーの症状がまだ出ていない状況でも、脳へのアミロイドβの蓄積を確認することで早期に診断できるというものです。最近の報道では、血液による診断や、アミロイドβと別のタウタンパク質の研究など、アルツハイマーの早期診断などに関して研究が急激に進んできているようですが、先端医療センターでのPET診断の状況はどうなっていますか？

②バイオシミラー

医薬品では、昨年度の予算特別委員会でバイオシミラーについて質問しました。日本はバイオ医薬品の後発薬、バイオシミラーの開発体制が遅れ気味であり、昨年からは稼働している神戸大学の統合拠点、その点でも大変期待できると質問しました。最近も、新聞報道等で、韓国のバイオ後発薬の製造能力が著しく向上しているというニュースもあります。世界の生産の3割を超えたという記事でした。特に昨年暮れサムスン、870億円を投じてバイオ医薬品の新工場を建設するというものでした。バイオ医薬品の市場は2020年に35兆円になるとも言われています。神戸大学の統合拠点は、開設から1年が経ちましたが、現在の状況と、今後について伺います。

再質問)

③介護リハビリロボット

介護リハビリロボットについても昨年質疑を行いました。県立リハビリテーション病院に併設のロボットリハビリセンターにおいてロボットスーツ「HAL」は、下半身のまひなどの疾病の方のリハビリ用に臨床研究が行われております。その中で、医療用の下肢タイプについては、筋ジストロフィやALSの患者さんに対し、治療目的での医療機器として承認され、4月からは保険適用になるとも報道されています。神戸市としては、介護リハ

ビリロボットセミナーを開催するなど、企業との連携を模索されてきていますが、県のリハビリテーション病院と連携して戦略的な方向性をもって取り組んでいくべきだと思いますが、ご見解を伺います。

再質問) 県立リハビリテーション病院では、介護福祉の用具をロボットも含めて、展示のリニューアルを行ったと聞きます。連携して、シャトルバスなども準備をし、市内の企業も含めた市民見学会を開催してはいかがでしょうか？

④神戸アイセンター（メディカルクラスター）

今年度の予算の中で、神戸アイセンターの整備予算が計上されています。神戸アイセンターは、一昨年9月に、世界で初めてiPS細胞を用いた加齢黄斑変性の臨床応用を実行された高橋政代先生を中心にした再生医療拠点と伺っています。

第1例目の移植手術では、第一の目的であった合併症の確認について、大きな合併症は起きておらず、視力低下も押さえている状況であることが報告されています。2例目には、患者さんのiPS細胞でなく、安全性が確認されたiPS細胞ストックを用いて臨床研究を行う予定ということです。加齢黄斑変性は、進行を抑制するために、通常、新生血管の発生を抑止するための薬剤の注射などが必要ですが、この薬剤は高価であり、ずっと注射を続けていく必要もあると聞きます。1例目の手術では、薬剤の注射などを行わなくても、少なくとも視力の低下には至っておらず、2例目に期待をしたいと思います。

そこで、このアイセンターは、中央市民病院を中心にしたメディカル・クラスターにおいて、どのような位置づけになるのでしょうか。

また、細胞培養施設も併設される予定ですが、iPS細胞を用いた治療薬の開発や臨床試験の進め方はどのように行っていくのでしょうか。

再質問) メディカル・クラスターにおいては、中央市民病院を核に、高度専門病院群を配置し、国際貢献を行うという目標が掲げられています。国際医療交流を掲げたKIFMECが今、非常に厳しい状況に立たされていますが、神戸市としてどのように対処されるのか、また、田中先生が進めてこられた国際医療交流についてどう展開していくのか伺います。

3. 歴史的資料等の収集・保存、神戸文書館について

神戸文書館 ユダヤ人と神戸市民の交流に関する資料

先日、広報官から市民に向けた情報提供の呼びかけが行われました。

第二次世界大戦中、リトアニア日本領事館の領事代理だった杉原千畝氏が発給した、いわゆる「命のビザ」により迫害を逃れて神戸に辿りついたユダヤ人難民と、神戸市民の交流に関する資料や情報を探しているというものです。

当時、ユダヤ人難民に接した神戸市民がどのように関わり、どう支援したのかを市とし

て記録に残したいからということですが、情報は集まってきているのでしょうか。
集まった情報は、今後、どのように活用されようとしているのか伺います。

再質問) また、こうした関わり以外にも、神戸には開港150年の歴史があり、たくさん
の先人たちが世界の人々と関わってきた物語が多数眠っています。開港や、開港後の神
戸の土台を築き、国際的なつながりをもって発展させてきた神戸ゆかりの人々に脚光を当
て、掘り起こしていくようなこともやっていってはどうかと思いますが、いかがでしょう
か？

6. KOBEぽっぷカルチャー・フェスティバルについて

新長田は、鉄人28号モニュメントの登場で、アニメファンやコスプレ好きの若い世代
が集まるイベントなどに取り組んできました。中でもKOBEぽっぷカルチャー・フェス
ティバルは、昨年9月に4回目のフェスティバルを開き、観客2万9千人を動員してい
ます。アニメーションに関連した神戸の活性化の狙いに対して、両日間は、とにかくすご
いにぎわいと伺います。

同様な流れを汲むテナントとして、「神戸アニメストリート」が常設されており、コスプレ
のレンタルや写真撮影のスタジオ、アニソンカフェなどが運営されています。

KOBEぽっぷカルチャーフェスティバルには非常に多くの来場者が来られています
が、地元の活性化にどうつなげけいくのか、という課題が挙げられています。

今後、このイベントをまちづくりにどうやってつなげていこうとしているか伺います。

<没>質問

4. 都心三宮再整備の推進

昨年、フランスの、リヨン市、マルセイユ市を訪問し、両市の再開発地区を調査して参りました。リヨン市では、積極的に自然を取り込むように、再開発地域の中に小川や林を取り入れ、更に野鳥の巣箱を設置するという環境共生の取り組みが行われていました。また、マルセイユ市では、港において船の発着場、にぎわい施設、また、そこに行くための駐車場が隣接されており、レストランからは船や港が見渡せるようになっていました。

都心三宮の再整備にあたって、「港」との関係はどうするのが大変重要になってきます。また、昭和の開発ではあまり考えられなかった環境共生という課題もあります。

都心と港のアクセスの悪さや、高速やバイパスなどの無機物の見える景色など、根本的なまちの課題について三宮再整備の中でどのように解決していこうとされるのか伺います。

5. 健康長寿のまち シニア・ペアマラソン・ウォークについて

「感謝」と「友情」をテーマに始められた神戸マラソンでは、昨年11月には、早くも第5回の大会となり、全国から訪れた2万人のランナーが走り抜けました。神戸マラソンの認知度もアップし、毎年、エントリー希望者が増加、2度3度抽選にはずれる人の話もよく聞きます。マラソンは、42.195kmを走りきるだけの体力が必要で、誰もが出場というわけにはいかないものです。マラソンに比べ、ウォーキングは、参加しやすく、神戸の海沿いの道路を歩くことができれば、別の人気にもなるのではないかと思います。そこで、シニア・ペアマラソンウォークを提案します。舞子公園や須磨浦公園など、美しい公園はたくさんあります。コースを工夫し、必ずペアで歩きます。ご夫婦はもちろん、友達、親子、お孫さんと、職場の同僚など、ペアでエントリーします。

全国から募集することで、